

経営比較分析表（平成29年度決算）

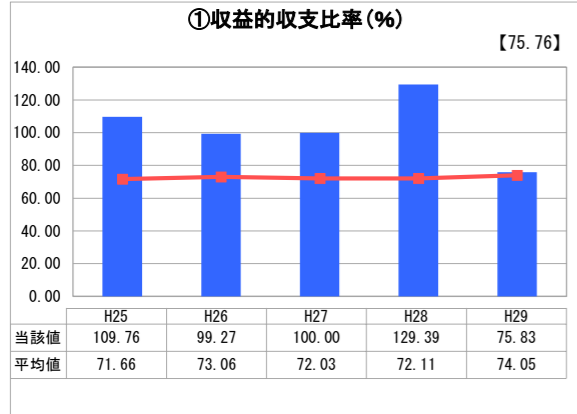
和歌山県 北山村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	99.33	1,700	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
449	48.20	9.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
442	40.00	11.05

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



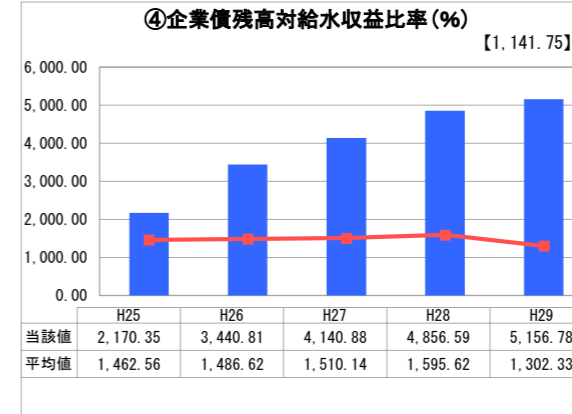
「単年度の収支」



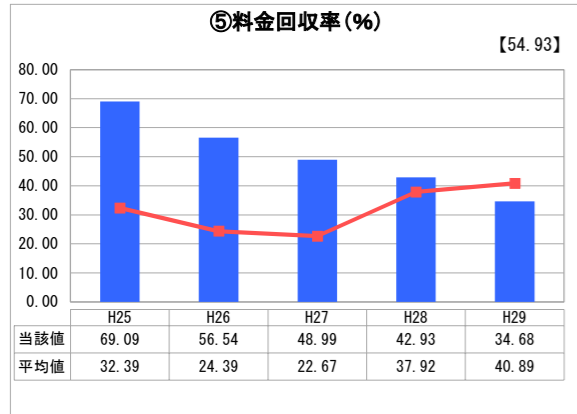
「累積欠損」



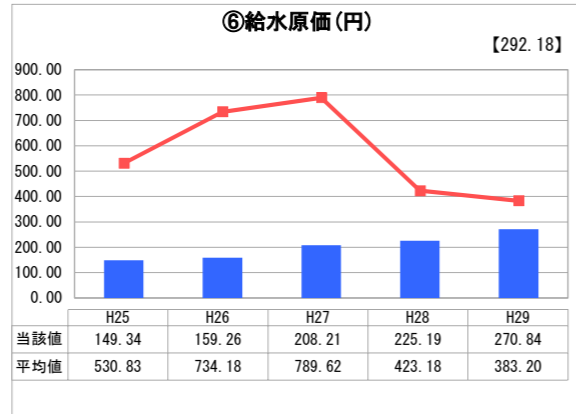
「支払能力」



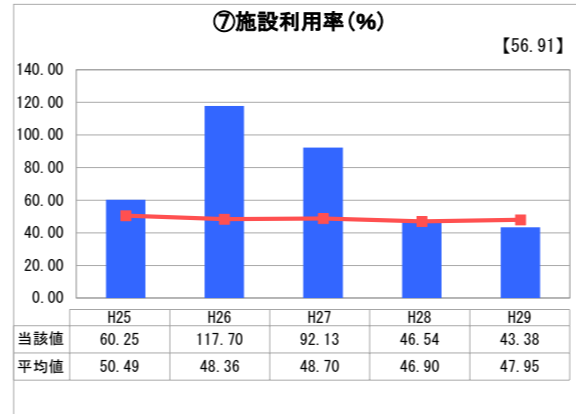
「債務残高」



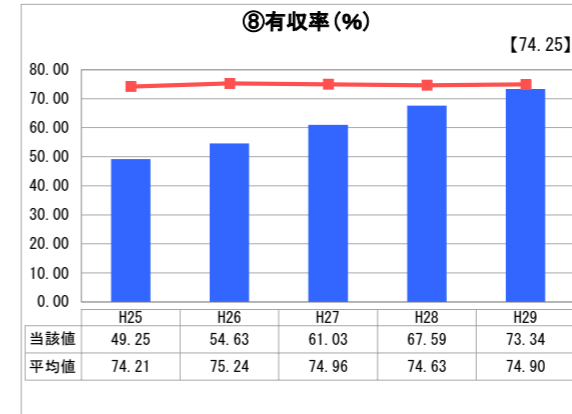
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

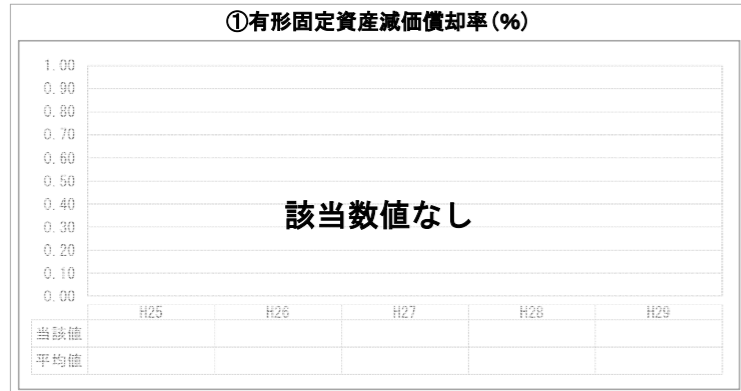


「施設の効率性」

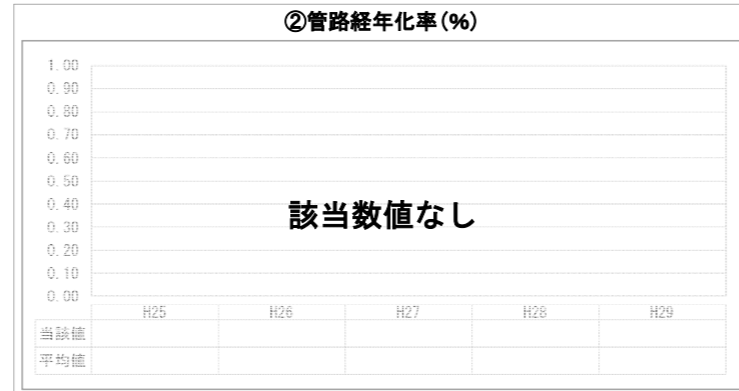


「供給した配水量の効率性」

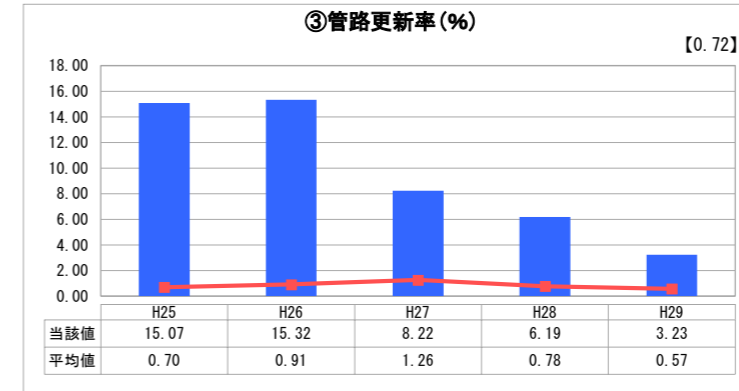
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当村の簡易水道事業における財政環境は極めて厳しく、少子・高齢化により、料金収入は年々減少している状況です。例年では収益的収支比率を見ると、平均値を上回っておりますが、料金収入によるものではなく、一般会計からの繰出しによる財政支援がなければ経営は成り立たない状況です。

小規模な簡易水道施設を2施設抱えており、山間部の過疎地域においては配水管で集落間をつないでいるため管路延長が長く、施設の維持管理に多くの費用が必要となっています。

平成23年度から老朽管の布設替えを実施しており、管路の更新に伴い給水減価が上がるため、今後も料金回収率は年々減少していくと思われます。

人口の減少により料金収入などの財源確保が難しく、繰入に頼った経営状況なので、今後も経費の削減や漏水対策など効率性を高める必要があります。

2. 老朽化の状況について

現在の施設は、昭和53年から54年に整備されており、施設の更新時期を迎えています。

安心・安全な水道水を安定して供給するため、平成23年度から老朽管の布設替えのため管路更新率が高くなっており、平成30年度終了予定となっております。老朽管の更新の際には積極的に耐震管を採用し、水道管の耐震化も並行して進めています。

また、遠隔監視装置なども導入し、効率的な施設管理が行える設備を取り入れております。

今後は老朽化する濾過地配水池についても地震災害に対する耐震化などの施設整備が必要となっております。

全体総括

近年、高齢化及び給水人口の減少に伴い、年間有収水量も減り続けております。このため事業を運営していくための料金収入の確保が非常に厳しく一般会計からの繰出しに依存している状況にあります。

さらに、平成23年度から実施している施設の改修事業により起債の償還に要する費用が増加することが見込まれているため、今後さらに経費の削減に努め、効率的な経営が求められるところであります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。